

# 第10章-3 フランス革命

## 1. 立憲王政から共和政へ

### <旧制度の矛盾>

背景 ・ \_\_\_\_\_ ( \_\_\_\_\_、Ancien-regime)  
 =聖職者、 \_\_\_\_\_ =貴族 ……特権身分(免税など)  
 ⇔ \_\_\_\_\_ =平民  
 全国民の98%、うち8割が領主裁判権の支配下にある農民

・啓蒙思想の流行

原因 国王 \_\_\_\_\_ (1774-92)  
 アメリカ独立戦争支援したことで財政難が限界に  
 ↓  
 重農主義者テュルゴー、銀行家ネッケルらを財務長官に登用し財政改革  
 ブルジョワの経済的自由実現 (⇔ 小生産者の生活脅かす面も)

特権身分への課税を図る(財務長官カロンヌらによる根本的解決策)

革命の発端… 貴族の王権に対する反抗… 高等法院はこの法案の登記を拒否  
 三部会の開催を要求(新税制否決図る)

- ※三部会(Etat Generaux)の規定
- ①. 選挙方法… 第3身分代表のみ選挙人方式の間接選挙  
 (貴族・聖職者でも第3身分代表として立候補可能)
  - ②. 議席配分… 各身分とも定数300
  - ③. 議決方法… 各身分ごとに1票 (=特権身分が常に2対1で有利)

第3身分も、貴族に同調して三部会開催要求(まず参政権が必要)  
 →②について第3身分のみ定数600とすることを貴族に認めさせる

1789.1 \_\_\_\_\_ (1748-1836、シャルトル大聖堂副司教)、  
 バンフレット『 \_\_\_\_\_』発行  
 第3身分とは何か? すべてである。  
 第3身分とは何であったか? 無である。  
 何を要求するか? それ相応の者になること。  
 三部会では特権身分と別行動をとり、独自の国民議会を!

### <革命の勃発=1789年>

1789年 5月5日 \_\_\_\_\_ 召集(1614年以来175年ぶり)、於ヴェルサイユ宮殿会議場  
 議決方法をめぐって、特権身分と第3身分の対立  
 ↓  
 6月17日 \_\_\_\_\_ (Assemblée Nationale) 成立  
 \_\_\_\_\_ (Mirabeau, 1749-91、伯爵)、シエイエスらの指導で  
 第3身分が三部会から離脱。特権身分からも一部合流。  
 ⇔国王は会議場封鎖し使用禁止

6月20日 \_\_\_\_\_ (Serment du Jeu de Paume)  
 「国民議会は、憲法を制定し…王政の真の原則を擁護するために招集された。  
 ……憲法が制定され、その基礎が確立されるまでは、我々は議会を放棄せず、  
 事情に応じていかなる場所にも集合することを、今ここに厳粛に宣誓する。」

6/27 国王も国民議会を承認(特権身分からの合流者多く)  
 7/9 憲法制定国民議会(Assemblée Nationale Constituante)と改称

ところが、国王は議会を武力で圧迫(ルイ16世は、取り巻きに左右されやすい性格)  
 7/11 財務長官ネッケルを罷免

1789年 \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_\_ (Bastille = 牢獄) 襲撃  
 フランス大革命(La Revolution Française) 勃発

7/15 \_\_\_\_\_ (La Fayette, 1757-1834、侯爵)、国民軍総司令官に就任  
 // バイイ国民議会議長、パリ市長に就任 (↑三色旗をその帽章に制定)  
 7/17 国王、パリ市と和解

- ・地方都市でも革命…選挙人委員会が市政掌握
- ・農村では暴動頻発(パリ情勢にデマが付加され大衆ヒステリー状態に)

\_\_\_\_月 \_\_\_\_日 封建的特権廃止宣言…農民暴動対策  
 ①. 免税特権廃止  
 ②. 封建地代の有償撤廃(約25年分の地代一括納入で=無理!)  
 ③. 領主裁判権・封建的人身支配の廃止

\_\_\_\_月 \_\_\_\_日 \_\_\_\_\_ (Declaration des Droit de l'Homme et du Citoyen)  
 ラファイエットが起草、全17条

- 第1条 人間の自由・平等
- 第2条 国家の目的は自然権の保護  
 (自由、所有権、安全、圧政への抵抗)
- 第3条 主権在民
- 第17条 所有権の不可侵

ところが国王は上記2法案を承認せず再び武力による威圧 → 政情不安でパリに穀物出荷止まる

10月5日 \_\_\_\_\_ 行進  
 主婦らを先頭にパリ市民数千人がデモ行進、宮殿乱入。  
 国王は人権宣言などを承認。  
 翌日、国王一家は市民とともにパリ市内テュイルリー宮殿に移る。(議会もパリに)

11月 教会財産没収・国有化 → それを担保にアッシニア紙幣発行  
 ↓  
 革命政府とカトリック教会の対立

以後、しばらくは立憲王政による安定期…ミラボーが、議会と国王のパイプ役  
 (1790年は特記事項なし)

### <革命の進展=1791年>

1791年 4月2日 ミラボー急死 → 「国王逃亡=対外戦争の危機」と警戒体制に

6月20日 \_\_\_\_\_ 事件  
 国王一家、王妃 \_\_\_\_\_ の実家オーストリアへの逃亡を図るが  
 逮捕され翌日パリに連行。民衆の国王への信頼失われる。

9月3日 91年憲法制定(立憲王政、一院制、財産資格選挙)  
 ↓

10月1日 \_\_\_\_\_ (Assemblée Legislative) 召集

- \_\_\_\_\_ 派 (Feuillans) ……立憲王政派
- \_\_\_\_\_ 派 (Girondins) ……穏和な共和主義  
 大商人らの利害を代表
- \_\_\_\_\_ 派 (Jacobins) ……急進共和派  
 下層民( \_\_\_\_\_, =半ズボンなし)の支持

<革命戦争>

1791年 8/27 宣言  
 皇帝レオポルト2世（マリ・アントワネットの兄）が  
 プロイセン王フリードリヒ・ヴィルヘルム2世と共同で  
 フランス王権回復のため諸国君主に救援呼びかけ、革命政府に警告

国内各派の思惑・・・国民感情は開戦不可避  
 ジロンド派・・・世論にのって開戦し指導権確立図る  
 国王周辺・・・各国君主に対仏開戦を要請  
 国内では国民感情をあおる一方で  
 貴族の軍司令官にはサボタージュの根回し  
 ジャコバン派指導者ロベスピエール  
 国内の敵打倒が先決として、1人開戦反対

1792年 3月 ジロンド派内閣成立  
 ルイ16世に、ピルニッツ宣言取り消しを求めさせる  
 ↓  
 4/20 ルイ16世、立法議会にて、対オーストリア宣戦布告提案  
 →満場一致で可決、革命戦争の勃発  
 ↓  
 しかし、王党派の根回しにより、敗北の連続

<共和政へ=1792年>

1792年 7/11 立法議会、非常事態宣言  
 全国から義勇軍招集 → ジャコバン派により組織化

8月10日 事件（8月10日事件）  
 ジャコバン派の指導下、義勇軍、サンキュロットの武装蜂起  
 テュイルリー宮殿に乱入し、**国王逮捕・王権停止**

9月20日 (Convention Nationale) 召集・・・男子普通選挙による

同日 の戦い  
 フランス国民軍（一般人の軍）が、プロイセン職業軍人の軍に初勝利  
 ↓  
 共和派に自信 ※ヴァイマル公に随行し軍中にいたゲーテの言葉  
 「今日ここから新しい世界史の一時代が始まる」

9月21日 国民公会開会、王政廃止宣言

9月22日 共和政宣言、満場一致可決 = (~1804)  
 ※この日が**革命暦**紀元

国民公会の勢力分布  
 ジロンド派・・・ブルジョワの利益を用心深く守る  
 →柔軟性を欠き情勢の変化についていけない  
 ジャコバン派（派, Montagnards）  
 議場最左翼の上段に席を占めていたことから  
 （政治用語としての左翼・右翼もここから始まる）  
 両派とも750人中200人弱ずつ、残りは中間派  
 ブルジョワ代表多くジロンド派支持→ジロンド派政権継続

戦局好転・・・10月までにニース、サヴォワ、ライン左岸占領、11月ベルギー占領  
 →占領地の住民は、革命フランスに併合されることを望む  
 11/19 占領地併合宣言

<革命の最高段階へ=1793年>

1793年 1月21日 前国王ルイ16世、処刑  
 ジロンド派は国王処刑に反対だった  
 ↓  
 ジャコバン派サン=ジュストの言葉「国王は存在するだけで罪である」

占領地併合とルイ16世処刑が諸外国を刺激  
 ↓  
 3月 第1回 結成  
イギリス首相、諸国を誘ってフランス包囲  
 ↓  
 ジロンド派政権の戦争指導失敗もあって再び戦局不利に  
 →国民公会中間派の支持もジャコバン派へ移る

5/31 ジャコバン派の指導でパリ市民蜂起  
 6/2 ジャコバン派、ジロンド派を国民公会から追放し独裁

ジャコバン独裁の組織  
 { (Comite de Salut Public)・・・最高指導機関  
(Comite de Surete general)・・・治安、警察  
(Tribunal revolutionnaire)・・・反革命容疑者を次々と処刑  
 → (La Terreur)  
 93年10～12月に177人処刑  
 (マリ・アントワネット、ジロンド派、フイヤン派など)

※ギロティン (Guillotine)・・・国民議会議員・医師ギョタン (Guillotin) が考案

ジャコバン派の主な人々  
 { (Robespierre, 1758-94)・・・最高指導者  
(Marat, 1743-93)・・・93.7 ジロンド派女性により入浴中暗殺  
(Danton, 1759-94)・・・派内右派  
 エーベル (Hebert, 1757-94)・・・派内左派  
 サン=ジュスト (Saint-Just, 1767-94)・・・若手、ロベスピエールの腹心

▼内政  
 6/24 **ジャコバン憲法（93年憲法、一院制・男子普通選挙の国民公会規定）**  
 世界史上初の民主憲法、しかし平和到来まで施行見送り

7/17 **封建的特権の無償廃止（=封建地代の廃止）**  
 革命最大の成果。農奴的小作人が小土地所有農民に

その他 { **最高価格制**・・・無産者の生活保護  
**理性崇拜の宗教**・・・エーベルによる →ロベスピエールは反対  
**メートル法**  
**革命暦**・・・1792.9.22にさかのぼり施行、1805年まで使用  
 1ヶ月30日、3旬に分け各10日目を休日  
 12ヶ月360日=1年、残り5～6日は祭典日  
 月の名も季節感を表現するものに改める

革命暦・メートル法など→キリスト教その他の宗教に由来する風習をやめるという意義

▼軍事  
 8月 総徴兵法・・・近代的国民軍、軍隊内体罰禁止、身分差別禁止、能力本位の登用  
 12月 ツーロン港においてイギリス軍・王党派の反革命軍を鎮圧  
 (↑砲兵大尉ナポレオンの活躍)

93年末までに内乱鎮圧、春以来の失地回復（再びライン左岸他まで進撃）

<テルミドール反動=1794年>

政情安定とともにジャコバン派内部対立

- 1794年 3/24 左派のエーベル処刑  
……ロベスピエールは理性崇拜の宗教に反対（カトリック人民の離反を恐れる）
- 4/5 右派のダントン処刑  
……穏和主義・ジロンド主義と批判され、すでに93年7月に公安委員除名
- ↓
- ロベスピエール独裁確立
- 6/8 最高存在の祭典……芸術監督ダヴィッド（古典派の画家）



※土地を得て保守化した農民が恐怖政治を嫌う →ロベスピエール孤立

\_\_\_\_月\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_ (Thermidor, 熱月) 日のクーデタ  
ロベスピエール逮捕、翌日処刑

※テルミドリアン……旧ジロンド派とほぼ重なる、穏和な共和主義者たち  
しかし、ジャコバン派打倒したためサンキュロットの支持得られず  
国王を処刑した共和派ということで王党派からも攻撃される

↓  
両派からの攻撃に対抗するため、軍隊の力無しでは政権維持不可能  
→ジャコバン派として逮捕されたナポレオンを釈放して利用

<総裁政府=1795年>

- 1795年 8/22 95年憲法制定……二院制、財産資格選挙、5人総裁
- 10/5 王党派によるヴァンデミエール13日のクーデタをナポレオンが鎮圧
- 10/26 \_\_\_\_\_ (Directoire) 成立
- 1796年 5月 \_\_\_\_\_ (Babeuf, 1760-97) ら平等主義者の陰謀発覚・逮捕、翌年処刑

※憲法の規定により、1年ごとに両院の3分の1、及び総裁1人を改選  
そのたびごとに政情不安、クーデタ発生（1797.9、1798.5、1799.6）

↓  
シエイエス復活、総裁となる（ジャコバン恐怖政治も生き延びる＝「革命のモグラ」）  
クーデタを必要としない強力な政府樹立を図る  
そのための最後のクーデタ実行者を捜しているところへ、ナポレオンがエジプトから帰国

< \_\_\_\_\_ (Napoleon Bonaparte, 1769-1821) の略歴 >

コルシカ島（もとジェノヴァ領→1768年以來フランス領）の小貴族出身。  
1789年大革命勃発時はパリ士官学校在学。砲兵士官となる。のち帰郷しコルシカ独立運動に参加。  
1792年、コルシカを本国と対等の自治区とする革命政府の政策に賛成。  
英国と結び独立を図る一派と対立し、93年に家族とともにフランス本土へ移住。  
ジャコバン派独裁下で革命軍に入り、ツーロン港の王党派鎮圧。  
テルミドール反動で投獄。しかし2週間で釈放。  
ヴァンデミエールのクーデタを鎮圧し、総裁政府の保護的存在となる。

- 1796～97 イタリア遠征……ロンバルディア平原でオーストリア軍を破る
- 1797年10月 \_\_\_\_\_ 和約（対オーストリア） →第1回対仏大同盟崩壊
- 1798～99 \_\_\_\_\_ 遠征……英・インド間の連絡を断つため  
陸上戦では優勢（この時ロゼッタ・ストーン発見）
- 1798年8月 \_\_\_\_\_ の戦い……仏海軍が、 \_\_\_\_\_ 提督率いる英海軍に敗北  
遠征軍孤立
- 1799年 第2回対仏大同盟結成← \_\_\_\_\_  
本国の危機→ナポレオン単身帰国

2. ナポレオン時代

<統領政府=1799年～>

1799年 \_\_\_\_月\_\_\_\_日 \_\_\_\_\_ (Brumaire, 霧月) 日のクーデタ  
↓  
ナポレオンのクーデタ  
↓  
\_\_\_\_\_ (Consulat) 成立……3人の統領、4院制立法府  
事実上、第1統領ナポレオンの独裁  
立法府の各院は立法権の一部ずつ分担＝権限微弱

▼対外

- 1800.6 マレンゴの戦い……オーストリアを破る  
→01.2 リュネヴィルの和約……フランス、ライン左岸領有
- 1801.7 宗教協約 (Concordat) ……革命政府とローマ教皇との和約  
王党派聖職者対策のため教皇の権威必要  
(後の皇帝戴冠式への教皇の列席を可能に)
- 1802.3 \_\_\_\_\_ の和約……イギリスとの講和→第2回対仏大同盟崩壊  
93年以來の完全平和

▼内政

- 1800 フランス銀行設立……財政整理
- 1802 国民教育制度  
レジオン=ドヌール勲章 (Legion d'honneur, 名誉の軍団) 創設  
「勲章をオモチャと呼ぼうと勝手だ。  
しかし人類が支配されるのはオモチャによってなのだ。」
- 1802.8 ナポレオン、国民投票で終身統領に就任 ←アミアンの和約
- 1804.3 フランス \_\_\_\_\_ (Code civil de Francais, =ナポレオン法典 Code Napoleon)  
全2281条、革命の成果を定着させる  
私有財産の不可侵、個人の意志の自由、契約の自由  
家族制度としては家父長権強い  
※「余の眞の荣誉は40回の戦勝ではなく、永遠に残る民法典である」  
→修正されながらも現在まで有効

<帝政開始=1804年>

- 1804年 5/18 国民投票で皇帝に即位 (ナポレオン1世、 \_\_\_\_\_、～1814/15)
- 12/2 戴冠式挙行 (パリ、ノートルダム大聖堂、教皇ピウス7世列席)  
→ダヴィッドの絵『ナポレオンの戴冠式』  
(皇后ジョゼフィーヌへの戴冠の場面)

<ヨーロッパ制覇>

- 1805年 8月 第3回対仏大同盟……イギリス、ロシア、オーストリア ←皇帝即位
- 10/21 \_\_\_\_\_ 海戦 (Trafalger)  
フランス海軍、イギリス海軍に敗れる (英、ネルソン提督は戦死)
- 12/2 \_\_\_\_\_ 三帝会戦 (Austerlitz Dreikaiserschlacht)  
オーストリア皇帝フランツ1世・ロシア皇帝アレクサンドル1世の連合軍を破る  
(=神聖ローマ皇帝フランツ2世、後述)
- 12/25 プレスブルクの和約……対オーストリア →第3回対仏大同盟崩壊  
ナポレオン、イタリア王兼任  
ドイツ・イタリアにおけるハプスブルク家領全失

|       |     |  |
|-------|-----|--|
| 1806年 | 3月  | ナポレオンの兄ジョゼフ、ナポリ王（～1808）  |
|       | 6月  | 同じく弟ルイ、オランダ王（～1810）<br>※その妃はジョゼフィーヌの前夫との子オルタンス・ド・ポアルネ<br>その間に1808年にルイ=ナポレオン・ボナパルト出生  |
|       | 7月  | _____（Rheinbund）成立<br>フランス保護下に全ドイツ諸侯（プロイセン・オーストリア除く）加盟<br>↓<br>消滅  |
|       | 8月  | 神聖ローマ皇帝フランツ2世（1792-1806）、ローマ帝冠辞退。<br>↑既に1804年からオーストリア皇帝フランツ1世（～1835）と称す。<br>（オーストリアが大公国から帝国に）  |
|       | 9月  | 第4回対仏大同盟……英・ロシア・プロイセン<br>（↑中立だったがライン同盟結成に危機感抱く）  |
|       | 10月 | イエナ・アウエルシュタットの戦い<br>ナポレオン、プロイセンを破りベルリン入城   |
|       | 11月 | ベルリン勅令= _____（Blocus continental）発令<br>ヨーロッパ諸国に対し、イギリスとの通商を禁止する。<br>目的……イギリスの経済的孤立化、フランス産業の保護育成<br>⇕<br>結果……フランスの産業不振、イギリス依存の諸国を苦しめる<br>イギリスは海外市場を多く持ち、封鎖のダメージ無し |
| 1807年 | 2月  | アイラウの戦い……ロシアを破る  |
|       | 7月  | _____条約……プロイセン、ロシアと _____ →第4回対仏大同盟崩壊<br>旧ポーランド領に _____ 建国（ザクセン王が同大公兼任）<br>エルベ川以西のプロイセン領に周辺諸小邦を併せ _____ 建国（弟ジェロームを国王に）<br>ロシアも大陸封鎖令に参加させる                        |
| 1808年 | 5月  | スペイン・ブルボン朝を廃し、兄ナポリ王ジョゼフをスペイン王（～1813）<br>↓<br>ナポリ王に義弟ミュラー（～1814）<br>※スペイン人民による抵抗戦争（後述）<br>→ゴヤの絵『1808年5月3日の処刑』   |
| 1809年 | 4月  | 第5回対仏大同盟……英、オーストリア   |
|       | 5月  | ナポレオン、ウィーン入城<br>教皇俗権廃止、教皇領併合宣言   |
|       | 10月 | シェーンブルン和約……オーストリアと講和 →第5回対仏大同盟崩壊   |
|       | 12月 | ジョゼフィーヌと離婚（子が生まれなため。皇后の称号は継続）<br>↓   |
| 1810年 | 4月  | ナポレオン、オーストリア・ハプスブルク家皇女 _____ と結婚<br>（フランツ1世の娘）<br>↓  |
| 1811年 | 3月  | マリー・ルイーゼ、皇子出産（フランソワ・ボナパルト、ナポレオン2世、～1832死）<br>皇子を「ローマ王」とする。<br><ナポレオン全盛期>   |

※ローマ王

中世、神聖ローマ皇帝となるものは、まず選帝侯による選挙で「ローマ王」に選出された。  
ローマ王は、ローマ教皇から帝冠を授けられることによって「ローマ皇帝」となった。  
よって、ここで皇子が「ローマ王」となったのは、ナポレオンの皇太子とされた、という意味である。

<諸国民の抵抗>

ナポレオンの軍事的成功←革命理念に鼓舞されたフランス国民軍の士気  
諸地域の民衆からも、封建制からの解放者として歓迎



次第に「自由」の名のもとに他国を「支配」するという矛盾に陥る  
→革命理念に影響された諸民族の民族意識の高揚

▼スペイン……1808年5月2日、マドリッド暴動 翌日の処刑=ゴヤの絵  
イギリスの援助（ウェリントン将軍）を受けて抵抗

▼プロイセン……占領下で、 \_\_\_\_\_ の改革  
国制近代化、都市の自治制再建、商工業における営業の自由  
農奴解放（ただし有償、条件は農民に厳しい）  
ベルリン大学創設（1810）……言語学者フンボルトによる  
（現フンボルト大学） （地理学者はその弟）

1807-08 \_\_\_\_\_（観念論哲学者、初代ベルリン大学総長）による連続講演  
「 \_\_\_\_\_（Reden an die Deutsche Nation）」  
国民の愛国心に訴える。（教育などがテーマ）

▼ロシア……大陸封鎖で、自国の穀物市場としてのイギリスを失う  
→フランスに反抗して大陸封鎖脱退 →ナポレオン、ロシア遠征

<ナポレオンの没落>

1812年 5月 ナポレオン、冬装備無しで \_\_\_\_\_ 出発  
9/14 無人のモスクワ市に入城、同夜モスクワ大火（ロシア側の焦土作戦）  
10/13 初雪 → 10/19 ナポレオン退却開始  
帰路、ロシア軍の追い打ちで、将兵の99%を失う

1813年 2月 第6回対仏大同盟（前2回を特に数えずこれを第4回とすることが多い）  
全ヨーロッパ諸国による加盟。

3月 ドイツ解放戦争（Befreiungskriege）開始

10/16-18 \_\_\_\_\_の戦い（諸国民戦争、Völkerschlacht）  
プロイセン・オーストリア・ロシア連合軍、ナポレオンを破る

1814年 3月 連合軍パリ入城  
4/11 ナポレオン退位、 \_\_\_\_\_ に流刑  
（同島の統治者として、皇帝の称号保持、年金200万フラン、近衛兵1200名）  
王政復古、ルイ18世（～1824）即位

9/18 \_\_\_\_\_開催……しかし「会議は踊る、されど進まず」

1815年 2月 ナポレオン、エルバ島脱出→無抵抗でパリ入城  
3/20-6/22 ナポレオン皇帝に復位=「 \_\_\_\_\_（Les cent Jours）」  
3/19、ルイ18世避難

3/25 第7回対仏大同盟  
6/8 ウィーン議定書

6/18 \_\_\_\_\_（Waterloo）の戦い  
\_\_\_\_\_将軍率いる英・普・蘭の連合軍、ナポレオンを破る

6/22 ナポレオン退位 → \_\_\_\_\_ に流刑

1821.5/5 同島にて死去

1840 遺体がパリに戻されオテル・デ・ザンヴァリッド（廃兵院）に埋葬

※ナポレオン戦争……第2次英仏百年戦争の最後  
結局は産業革命が進むイギリスにフランスが敗北